

平成30年度 東京都学力調査分析 小松川第二中学校〈英語〉

1. 結果の概要

カテゴリー 内容(観点)	問題番号	設問項目	都平均 (%)	本校平均 (%)
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	1	相手の話を聞き、積極的に応答しようとする。	97.9	98.8
	11	相手に自分のことを積極的に伝えようとしている。	67.3	92.0
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 平均		82.6	95.4
外国語表現の能力	4	伝えたい内容を正確な英文で書くことができる。	36.4	45.4
	6(1)	質問に対して正しい英語を用いて2文で応答できる。	32.6	36.8
	6(2)	質問に対して正しい英語を用いて2文で応答できる。	25.5	41.1
	10	場面にふさわしい表現を用いて書くことができる。	32.5	35.6
	外国語表現の能力		31.8	39.7
外国語理解の能力	2(1)	疑問詞のある疑問文に適切に応答できる。	68.5	81.0
	2(2)	疑問詞のある疑問文に適切に応答できる。	84.5	90.8
	2(3)	相手からの依頼に適切に応答できる。	40.5	41.7
	3(1)	まとまりのある英文を聞いて、概要を理解することができる。	78.2	80.4
	3(2)	まとまりのある英文を聞いて、詳細を理解することができる。	90.1	93.9
	3(3)	まとまりのある英文を聞いて、要点を理解することができる。	63.7	64.4
	7(1)	まとまりのある英文を読んで、詳細を理解することができる。	56.0	71.2
	7(2)	まとまりのある英文を読んで、趣旨を理解することができる。	74.4	84.7
	外国語理解の能力		69.5	76.0
言語や文化についての知識・理解	5(1)	所属を表す前置詞の意味を理解している。	57.9	75.5
	5(2)	時を表す前置詞の意味を理解している。	42.6	41.1
	8(1)	「What+名詞」で始まる疑問文の語順を理解している。	52.6	86.5
	8(2)	代名詞及び形容詞の入る位置を理解している。	68.6	77.9
	9(1)	「Do/Does」の用法を理解している。	54.9	69.3
	9(2)	現在進行形の用法を理解している。	79.0	86.5
	言語や文化についての知識・理解		59.3	72.8
必要な情報を正確に取り出す力	12(1)	英文から情報を取り出すことができる。	66.3	73.6
	13(1)	英文から情報を取り出すことができる。	24.1	28.8
	必要な情報を正確に取り出す力 平均		45.2	51.2
比較・関連付けて読み取る力	12(2)	複数の情報を比較・関連付けることができる。	58.9	69.3
	13(2)	複数の情報を比較・関連付けることができる。	47.0	56.4
	比較・関連付けて読み取る力 平均		53.0	62.9
意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	12(3)	根拠を基に推論して解決することができる。	47.3	54.6
	13(3)	根拠を基に推論して解決することができる。	27.4	29.4
	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 平均		37.35	42.0

2. 結果に対する課題と改善策

〈カテゴリー内容(観点)別の結果の課題と改善策〉

- ・コミュニケーションへの関心・意欲・態度の正答率は、95.4%(都平均82.6%)で都平均を12.8%上回り、全ての問題で都平均を上回っている。これまでの取り組みの成果だと思われるので継続していく。
- ・外国語表現の能力の正答率は、39.7%(都平均31.8%)で都平均を7.9%上回り、全ての問題で都平均を上回っている。正答率は高くはない。話す活動を繰り返し、正しく書く力を伸ばす取り組みを続ける。
- ・外国語理解の能力の正答率は、76.0%(都平均69.5%)で都平均を6.5%上回り、全ての問題で都平均を上回っている。これまでの取り組みの成果だと思われるので継続していく。
- ・言語や文化についての知識・理解の正答率は、72.8%(都平均59.3%)で都平均を13.5%上回り、5(2)のみ都平均を下回っている。5(2)は、「～月に」を表す前置詞inを選択する問題である。時刻を表す前置詞atや曜日を表す前置詞onには慣れ親しんでいるが「in+月名」には慣れ親しんでいない。教科書に出てくることが少ないので、「When～?」を指導する際やコミュニケーション活動などで繰り返し発話させていく。
- ・必要な情報を正確に取り出す力は、51.2%(都平均45.2%)で都平均を6.0%上回り、全ての問題で都平均を上回っている。読み取る力をさらに伸ばす取り組みをする。
- ・比較・関連付けて読み取る力は、62.9%(都平均53.0%)で都平均を9.9%上回り、全ての問題で都平均を上回っている。読み取る力をさらに高める取り組みを続けていく。
- ・意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力は、42.0%(都平均37.35%)で都平均を4.65%上回り、全ての問題で都平均を上回っている。正答率は高くはないので、表、資料、メモなどと結びつけながら読み取る力をさらに高める取り組みをする。

【まとめ】成果と実践例

全てのカテゴリーで都平均を上回っている。また、「各教科の調査結果」では、「A教科の内容」で10.8ポイント、「B読み解く力に関する内容」で6.5ポイント、「AとBの合計」で9.8ポイント、都平均を上回っており、実践していることが成果に表れていると思われる。言語活動別の実践例を中心に示すことでまとめとする。

① 聞くこと

教師による英語、CDによる英語をできるだけ多く聞かせている。適宜リスニングポイントを与えて聞かせている。また音読指導に力を入れている。

② 読むこと

初見で教科書を読む活動を行わせている。絵や写真を用いてオーラルインタラクションを行い英文を読む意欲を喚起させている。初見で読ませた後にリーディングポイントを与えて再度読ませている。各自の力で読ませた後に語句のかたまりを意識して確認させ、理解が深まったところで音読の徹底を図っている。ノートを用いての家庭での学習(復習)を課している。

③ 話すこと、書くこと

話すことができなければ書くことは難しく、話すことと書くことは密接につながっていると考える。基本的かつ重要な語句や文、生徒が覚えづらい語句や文は特に注意して繰り返して言わせたり書かせたりしている。生徒同士でコミュニケーション活動をさせる際に「Do you ～?」や「What do you ～?」などで始まる問いに1問1答ではなくプラス1センテンスで答えさせたり、英問に対する答えを2文以上で書かせたりしている。定期考査にも出題している。また、スピーチ発表に取り組みせ、自分自身について正しい英文で書いたり、暗記して発表したりする活動をさせている。

④ 学習習慣

ア.単語テスト…週に1回程度、10問の単語テストを行っている。満点を取れなかった場合、間違えた単語を練習するプリントを渡し、提出することを課題にしている。満点を取った者を学年通信に載せている。

イ.家庭学習…ほぼ毎回、復習にあたる内容を中心とした宿題を出し、次の授業で確認している。